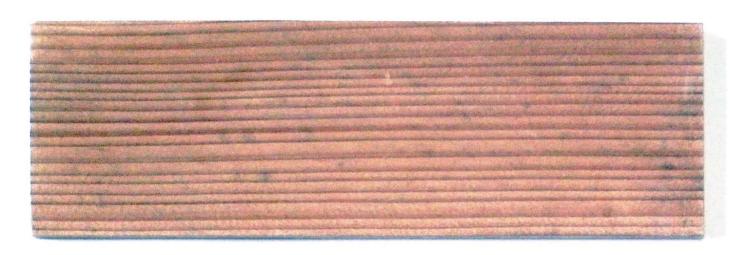
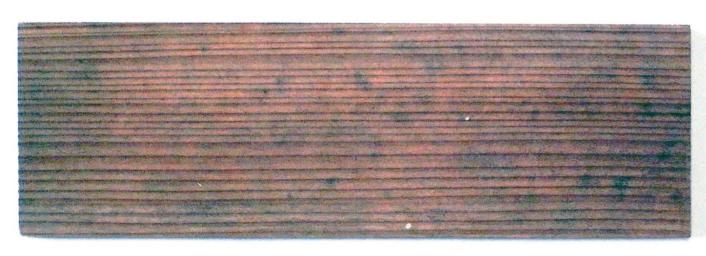
杉材の中で最高級とされる吉野杉の赤無面カンナ仕上げの板材をつかって自然塗料抗菌検証験を実施。 耐性の良い材は少々の悪条件では劣化しないので、最悪の条件である風呂場のスノコの下で約4ヶ月放置 したものを、検証資料として採用させていただきました。





●tatara撥水セラミックマルチ×追掛け3回塗工

吉野杉の赤身色が全体的に抜け気味であるものの、きれいな柾目はそのまま美しい状態。 ところどころ薄いシミのようなものがみられるが進行せずず繁殖をしっかり止めている。 木材内部の奥深くまで浸透し無機質のセラミックが被膜層を形成し水分をブロックしている ことによる。セラミック自体は無機質のためカビなど有機物の養分にはならす腐朽を止める。



●O社×2回塗工

全体的に色調が濃く暗くなりところどころにカビ・シミが繁殖。特に両端の木口からの水の 侵入のためかより黒く変色している。木材表面から徐々に侵入した水分と半造膜化したオイル (有機物質)塗膜を養分にカビの菌が繁殖し黒化している。 しだいに菌により分解された木材組織は腐朽へと進行していく。



●桐油/2回塗工

乾燥硬化しやすく浸透性がよくすっきりとした色調が特徴の桐油もカビの繁殖をくい止めることはできない。木肌の色調は薄く両端は比較的カビの繁殖はすくないが中心部あたりずいぶんと黒化している。木材表面から徐々に侵入した水分と浸透した桐油(有機物)を養分にカビの菌が繁殖し黒化している。

しだいに菌により分解された木材組織は腐朽へと進行していく。